

## 2 - 6 - 1 越前大野城跡（福井県指定史跡）【えちぜんおおのじょうあと】

越前大野城跡は、大野盆地の西側に位置する標高約250mの亀山と、その東側に縄張りを持つ平山城跡である。織田信長の部将、金森長近により天正年間（1573－1593）の前半に築城された。

越前大野城は亀山を利用し、外堀・内堀をめぐらし石垣を組み、天主閣を構えるという中世の山城にはみられなかった新しい方式の城であった。

江戸時代の絵図には、本丸の望楼付き2層3階の大天主と2層2階の小天主・天狗櫓などが描かれている。本丸の石垣は、自然石をほとんど加工しないで積み上げる「野面積み」と言われるものである。

江戸時代には町の大火により、城も幾度か類焼し、安永4年（1775）に本丸も焼失したが、寛政7年（1795）に再建された。廃藩後、城の建造物は取り壊され、石垣のみが残された。

説明板より